

P03

成育歯科医療における 歯科技工士の役割について

○窪山聖子^{1,2)} 石谷徳人^{1,2)}

1) イシタニ小児・矯正歯科クリニック

2) デンタルキッズ・ラボ

【緒言】当クリニックでは、全てのコ・デンタルスタッフが患者さまに“より身近に感じて頂ける存在”となることを大きな目標の一つにしている。現在、2名の女性歯科技工士が、小児・矯正歯科関連の技工物製作業務にとどまらず、診療室に赴き、職能を生かした患者さまとのコミュニケーションを行いながら、自らの役割について日々模索している。今回、成育歯科医療の現場から、技工士としての新たな役割と取組みについて報告したい。

【現在の取り組み】現在、技工物製作業務に加え、矯正歯科診療のアシスタント業務にも積極的に参加している。さらに、クリニカル・コーディネーターとして、矯正治療を検討あるいは、開始される患者さまに治療の説明を行っている。また、矯正治療中の不安やトラブルの多くは、口腔内の矯正装置に起因することから、装置の構造を熟知している製作者として、きめの細かい患者対応を行っている。このように技工室では学べない患者対応によって得られた経験を、安心・安全な技工物の製作のためにフィードバックしている。

【今後の課題】全国の歯科技工士に占める女性の割合は、1割に満たず、離職率も高い。しかし、お子様や女性の患者さまの多い成育歯科医療においては、女性歯科技工士の貢献には多くの可能性があり、活躍の場がもっとあるべきだと考える。しかし、専門学校での小児・矯正歯科技工教育は十分とは言えず、卒後に多様な症例に対応可能な技術力を身につけることは至難の業であり、当クリニックでは、各専門機関などと連携しながら、コミュニケーション技術も持ち合わせた技工士育成にも力を入れていきたいと考えている。

P04

九州地域における本音トークアンケート結果 —女性の私生活と仕事に関する調査—

○中村則子 松田容士子 高風亜由美
佐藤恭子 長谷川大子 馬場篤子 西田郁子
高野博子

日本小児歯科学会女性小児歯科医委員会・連絡協議会

【緒言】日本小児歯科学会では Specialist の育成・Skill-UP (技術・能力向上)・Social (親睦・社会活動) を目的に、平成 22 年度より女性小児歯科医委員会・連絡協議会を立ち上げた。そこではじめに九州地区女性小児歯科医の現況を把握し、どのようなサポートが必要かを模索するために女性学会員全員を対象にした「本音トークアンケート」を実施したのでその概要を報告する。

【対象】九州地方会の小児歯科学会女性会員 222 名 (連絡協議会協力医 6 名を含む)

【調査内容】1. 年齢、2. 勤務地または居住地、3. 勤務地または居住地の地域、4. 小児歯科を目指した理由、5. 小児歯科学会の認定医・専門医について、6. 生活形態 (結婚、育児、介護など)、7. 勤務状況、8. 職場環境

【結果】回答率は 37% であり、対象年齢は 40 歳代が 36.6% と多かった。専門医であるは 53% で今後更新したいが不安と答えた方が 40% であった。生活形態については結婚後も出産後も仕事を続けたいがほぼ 100% であり、出産・育児・介護サポートに不満足が 34% であった。希望する勤務形態については常勤が 78% で最も多かった。女性が仕事を続けていくために夫や家族の協力が必要と感じている人が 49% で職場の支援 23% より多かった。

【まとめ】専門医の更新に際し、在宅でのセミナー受講や近隣の会場でのサテライト方式の受講なども検討要望も数多く見られたことから、今後は復職支援状況、システムの構築 (小児歯科女性歯科医師バンクなど) の検討が必要と思われた。